3.5 シナリオ（山田断層帯）

(1) 京都市域の概要

・京都市内の最大震度は 5 弱。桂川など河川沿いで揺れが大きい。
・帰宅する通勤・通学者が多い夕方 18 時に発生した地震により、京都駅をはじめとする市内各所で帰宅困難者が発生する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。
・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
・24 時間以内に最低限必要な飲料水は 400 リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(2) 山城広域振興局地域の概要

・管内の最大震度は 5 弱。宇治川など河川沿いで揺れが大きい。
・鉄道の停止に伴い、帰宅困難者が発生。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。
・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
・24 時間以内に最低限必要な飲料水は 70 リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(3) 南丹広域振興局地域の概要

・管内の最大震度は 5 強。河川沿いで揺れが大きい。
・主要駅は、帰宅困難者で混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。また、市町と連携し一次退避場所を開設し誘導する。
・一部で出火するが、初期消火により延焼を防止。
・山間部では土砂災害（がけ崩れ）が発生し、全壊約 30 棟、半壊約 70 棟の被害が発生する。
・土砂災害による建物の破損により若干名の死者、負傷者が発生する。
・医療機関では、被害の大きい地域から、負傷者及び救助者を受け入れる。
・地震発生直後、自宅の損壊等により若干名の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。
・24 時間以内に最低限必要な飲料水は 200 リットル。備蓄物資で賄うことができる。要請に応じて、不足する市町村の応援に充当するが、支援先の物流機能の停止により供給が遅れる。
・被害の大きい市町村の復旧活動が本格化する。物資や医薬品の供給、災害廃棄物の受入等の支援を拡大する。

(4) 中丹広域振興局地域の概要

・管内の最大震度は 6 強。由良川等の河川沿いや舞鶴港沿岸部で大きな揺れを観測する。
・福知山駅をはじめとする各駅では帰宅困難者で混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、代替輸送を確保する。また、市と連携し一時退避場所を開設し誘導

する。混乱が長時間に及ぶため、一時滞在施設も開設する。

・揺れの大きい福知山市や綾部市の市街地で出火・延焼が発生し、約 20 棟が焼失する。

・由良川等の河川沿いや舞鶴港沿岸部で液状化が発生する。山間部では土砂災害（がけ崩れ）が発生し、揺れによる被害も含めて、全壊約 1,100 棟、半壊約 7,000 棟の被害が発生する。

・建物の倒壊や火災により約 30 人の死者、約 300 人の負傷者が発生する。要救助者は約 80 人発生する。冬 18 時以降の暗がりがさらに活動を妨げる。

・負傷者が災害拠点病院に搬送され、医療現場が混乱する。医療機関では、押し寄せる負傷者等の受入の他、入院患者のケアも必要となる。

・地震発生直後、自宅の損壊等により約 1,800 人の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。上水道、下水道、電気、通信、ガスが停止し、自宅の損傷がなくとも生活が困難となり、避難所に押し寄せる他、車中泊避難者も増加する。

・24 時間以内に最低限必要な食料は 3,400 食、飲料水は 45,000 リットル、毛布は 1,400 枚。冬季のため防寒の物資が必要となり、近隣の市町村や府県からの支援を要請するが、物流機能の停止により支援が遅れる。

・ライフラインの復旧に伴い、住居が無事な避難者は自宅に戻る。一方、住居を喪失した避難者は避難所生活を継続する。応急仮設住宅の建設、公営住宅の活用等により住宅を供給する。

(5) 丹後広域振興局地域の概要

・竹野川や野田川沿いを中心に最大震度 7 の揺れを観測し、同エリアで甚大な被害が発生する。京都縦貫自動車道や国道 176 号線等の被害により、物流機能が低下する。関係機関の出先事務所では、建物の一部が被災するとともに、執務室内では固定されていないキャビネット類や OA 機器類が転倒・散乱する。職員の負傷が発生し、地震発生による混乱と人員不足により、各機関の機能が低下する。

・帰宅する通勤・通学者が多い夕方 18 時に発生した地震により、主要駅では帰宅困難者で著しく混雑する。鉄道だけでなく、溢れた帰宅困難者がバスやタクシーに流れ、同様に混雑する。公共交通機関と連携し、運行状況の情報を提供するとともに、市町と連携し一時退避場所を開設し誘導する。混乱が長時間に及ぶため、一時滞在施設も開設する。

・一部地域で出火。1,100 棟が焼失する。

・市街地を中心とした大きな揺れ、川沿いの液状化、山間部で発生する土砂災害（がけ崩れ）により、全壊約 36,000 棟、半壊約 25,000 棟の被害が発生する。

・建物の倒壊や火災により約 400 人の死者、約 1,600 人の負傷者が発生する。約 3,300 人の要救助者が発生し、消防局や消防団等が救助活動に当たる。所業施設等ではエレベータが停止し、利用者が中に閉じ込められる。

・負傷者及び救助者が災害拠点病院に搬送される。医療機関では、負傷者等の受入の他、入院患者のケアも必要となる。

・地震発生直後、自宅の損壊等により約 32,000 人の避難者（避難所以外を含む全避難者）が発生。上水道、下水道が停止し、自宅の損傷がなくとも生活が困難となり、避難所に押し寄せる他、車中泊も増加する。

・24 時間以内に最低限必要な食料は 62,000 食、飲料水は 87,000 リットル、毛布は 26,000 枚。冬季のため防寒の物資が必要となり、近隣の市町村や府県からの支援を要請。

・山間部で発生する土砂災害（がけ崩れ）により道路が寸断され、孤立化集落が多数発生する。負傷者の搬送、物資の供給が難航する。
・ライフラインの復旧に伴い、住居が無事な避難者は自宅に戻る。一方、住居を喪失した避難者は避難所生活を継続する。応急仮設住宅の建設、公営住宅の活用等により住宅を供給する。
・文化財は、建造物だけでなく、転倒等による美術工芸品の破損等が発生する。搬出、応急措置を施し、生活基盤が安定した後、修復の検討に入る。

表 3.5-1　山田断層帯における京都市域のシナリオ（1/2）

山田断層帯

【京都市域】(冬、夕方(18 時))

(1/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
災害		最大震度:5 弱	● 山地部で土砂災害の発生箇所が点在				
建物		全壊:* 半壊:*	● 建物被害はほとんど発生しない				
火災		焼失棟数:0 棟	● 出火は発生しない				
人的		死者:0 人 負傷者:0 人 要救助者:0 人	● 人的被害は発生しない				
ライフライン	電力	停電軒数(停電率):	● 停電は発生しない				
		【被災直後】 0 軒(0.0%)	【1 日後】 0 軒(0.0%)		【4 日後】 0 軒(0.0%) 【1 週間後】 0 軒(0.0%)		
	上水道	断水人口(断水率):	● 管路等の被害による断水が発生 ➢ 施設の被害状況を把握	● 一部で断水継続 ✧ 応急給水活動を開始 ● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消	● 被害を受けた管路の復旧がほぼ完了し、管路被害を原因とする断水は解消		
		【被災直後】 400 人(0.0%)	【1 日後】 400 人(0.0%)		【1 週間後】 0 人(0.0%)	【1 ヶ月後】 0 人(0.0%)	
	下水道	機能支障人口 (機能支障率):	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ✧ 流下機能確保のための緊急工事 ● 利用可能に				
		【被災直後】 200 人(0.0%)	【1 日後】 0 人(0.0%)		【1 週間後】 0 人(0.0%)	【1 ヶ月後】 0 人(0.0%)	
	通信	不通回線数(不通率): 停波基地局率:	● 通話・通信の制限はほとんど発生しない				
		【被災直後】 *(0.0%) 0.0%	【1 日後】 *(0.0%) 0.0%		【4 日後】 *(0.0%) 0.0% 【1 週間後】 *(0.0%) 0.0%		
	都市ガス	供給停止率:0.0%	● 供給継続				

※被害数量の「*」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-2　山田断層帯における京都市域のシナリオ（2/2）

山田断層帯

【京都市域】(冬、夕方(18 時))

(2/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
交通施設	道路（橋梁）	橋梁大被害 0 箇所	● 山間部の土砂災害に起因する道路閉塞等により、一部地域で通行止めが発生 ➢ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ➢ 緊急輸送路の被害状況調査			● 概ね通行機能が回復	
交通施設	鉄道	新幹線:0 箇所 その他:＊	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 揺れの大きい地域では橋脚や盛土の被害等が発生 ✧ 鉄道各社による点検・応急復旧作業	→	● 鉄道の一部で運行再開 →	→	● 概ね運行再開
文化財		文化財被害数:0 件 文化財焼失数:0 件	● 被害は発生しない				
避難所		避難者数 【被災直後】 ＊	✧ 混乱防止の広報		【1 週間後】 ＊	【1 ヶ月後】 ＊	
避難所		帰宅困難者数: 6,400 人 外国人宿泊者数: 10,000 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が発生 ➢ 公共交通機関等の運航状況の情報提供 ➢ 代替輸送の調整				
物資		物資（備蓄品）必要量 食料:＊ 飲料水:400 リットル 毛布:＊	✧ 物資の調達体制を整備 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設	✧ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に提供 →	→	→	→
災害廃棄物		災害廃棄物発生量: 200 トン	✧ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 ✧ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬処理方法の検討	✧ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 ✧ 災害廃棄物の収集運搬処理の開始 ➢ ゴミ処理及び災害廃棄物処理の情報提供 ➢ 市町村間調整、広域的な支援要請		✧ 被災市町村からの災害廃棄物の受入 →	→
災害応急体制	消防	—	✧ 住民が初期消火を実施 ✧ 消防局・消防団による消火活動				
災害応急体制	救出救護活動	—	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響	● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響			
医療関連（医療機関・医師）		—		✧ 医薬品等を調達、搬送 ✧ 救護活動を展開 ✧ 被災市町村からの傷病者の受入			

※被害数量の「＊」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-3　山田断層帯における山城広域振興局地域のシナリオ（1/2）

山田断層帯

【山城広域振興局地域】（冬、夕方（18 時））

（1/2）

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
災害		最大震度：5 弱	● 山地部で土砂災害の発生箇所が点在				
建物		全壊：0 棟 半壊：0 棟	● 建物被害は発生しない				
火災		焼失棟数：0 棟	● 出火は発生しない				
人的		死者：0 人 負傷者：0 人 要救助者：0 人	● 人的被害は発生しない				
ライフライン	電力	停電軒数（停電率）：	● 停電は発生しない				
		【被災直後】 0 軒（0.0%）	【1 日後】 0 軒（0.0%）		【4 日後】 0 軒（0.0%） 【1 週間後】 0 軒（0.0%）		
	上水道	断水人口（断水率）：	● 管路等の被害による断水が発生 ➢ 施設の被害状況を把握	● 一部で断水継続 ✧ 応急給水活動を開始 ● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消	✧ 断水状況に応じて応急給水活動を継続	● 被害を受けた管路の復旧がほぼ完了し、管路被害を原因とする断水は解消	
		【被災直後】 70 人（0.0%）	【1 日後】 70 人（0.0%）		【1 週間後】 0 人（0.0%）	【1 ヶ月後】 0 人（0.0%）	
	下水道	機能支障人口 （機能支障率）：	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ✧ 流下機能確保のための緊急工事 ● 利用可能に				
		【被災直後】 50 人（0.3%）	【1 日後】 0 人（0.0%）		【1 週間後】 0 人（0.0%）	【1 ヶ月後】 0 人（0.0%）	
	通信	不通回線数（不通率）： 停波基地局率：	● 通話・通信の制限は発生しない				
		【被災直後】 0 軒（0.0%） 0.0%	【1 日後】 0 軒（0.0%） 0.0%		【4 日後】 0 軒（0.0%） 0.0% 【1 週間後】 0 回線（0.0%） 0.0%		
	都市ガス	供給停止率：0.0%	● 供給継続				

※被害数量の「*」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● ：被害の様相
➢ ：府の対応
✧ ：市町村等関係機関の対応

表 3.5-4　山田断層帯における山城広域振興局地域のシナリオ（2/2）

山田断層帯

【山城広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(2/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
交通施設	道路（橋梁）	橋梁大被害 0 箇所	● 山間部の土砂災害に起因する道路閉塞等により、一部地域で通行止めが発生 ➢ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ➢ 緊急輸送路の被害状況調査			● 概ね通行機能が回復	
交通施設	鉄道	新幹線:0 箇所 その他:0 箇所	● 鉄道は全面的に運行停止 ✧ 鉄道各社による点検・応急復旧作業	→	● 鉄道の一部で運行再開 →	→	● 概ね運行再開
文化財		文化財被害数:0 件 文化財焼失数:0 件	● 被害は発生しない				
避難所		避難者数 【被災直後】 0 人	● 避難者は発生しない ✧ 混乱防止の広報		【1 週間後】 0 人	【1 ヶ月後】 0 人	
避難所		帰宅困難者数: 1,100 人 外国人宿泊者数: 20 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が発生 ➢ 公共交通機関等の運航状況の情報提供 ➢ 代替輸送の調整				
物資		物資（備蓄品）必要量 食料:* 飲料水:70 リットル 毛布:0 枚	✧ 物資の調達体制を整備 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設	✧ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に提供 →	→	→	→
災害廃棄物		災害廃棄物発生量: 10 トン	✧ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 ✧ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬処理方法の検討	✧ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 ✧ 災害廃棄物の収集運搬処理の開始 ➢ ゴミ処理及び災害廃棄物処理の情報提供 ➢ 市町村間調整、広域的な支援要請		✧ 被災市町村からの災害廃棄物の受入 →	→
災害応急体制	消防	—	✧ 住民が初期消火を実施 ✧ 消防局・消防団による消火活動				
災害応急体制	救出救護活動	—	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響	● 燃料不足による救出・救護活動の影響			
医療関連（医療機関・医師）		—		✧ 医薬品等を調達、搬送 ✧ 救護活動を展開 ✧ 被災市町村からの傷病者の受入			

※被害数量の「*」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-5　山田断層帯における南丹広域振興局地域のシナリオ（1/2）

山田断層帯

【南丹広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(1/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1ヶ月後	復旧期 ～3ヶ月後
災害		最大震度:5 強	● 山地部で土砂災害の発生箇所が点在				
建物		全壊:30 棟 半壊:70 棟	● 山地部では土砂災害による住居の損壊、周辺に土砂堆積		✧ り災証明発行に伴う建物被害認定調査を実施	✧ 被災建物の撤去	
火災		焼失棟数:*	● 出火はほとんど発生しない。				
人的		死者:* 負傷者:* 要救助者:0 人	● 人的被害はほとんど発生しない				
ライフライン	電力	停電軒数(停電率):	● 停電は発生しない				
		【被災直後】 0 軒(0.0%)	【1 日後】 0 軒(0.0%)		【4 日後】 0 軒(0.0%) 【1 週間後】 0 軒(0.0%)		
	上水道	断水人口(断水率):	● 管路等の被害による断水が発生 ➢ 施設の被害状況を把握	● 一部で断水継続 ✧ 応急給水活動を開始 ● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消	✧ 断水状況に応じて応急給水活動を継続	● 被害を受けた管路の復旧がほぼ完了し、管路被害を原因とする断水は解消	
		【被災直後】 200 人(0.1%)	【1 日後】 200 人(0.1%)		【1 週間後】 20 人(0.0%)	【1ヶ月後】 0 人(0.0%)	
	下水道	機能支障人口 (機能支障率):	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ✧ 流下機能確保のための緊急工事 ● 利用可能に				
		【被災直後】 500 人(0.4%)	【1 日後】 0 人(0.0%)		【1 週間後】 0 人(0.0%)	【1ヶ月後】 0 人(0.0%)	
	通信	不通回線数(不通率): 停波基地局率:	● 通話・通信の制限はほとんど発生しない				
		【被災直後】 *(0.0%) 0.0%	【1 日後】 0 回線(0.0%) 0.0%		【4 日後】 0 回線(0.0%) 0.0% 【1 週間後】 0 回線(0.0%) 0.0%		
	都市ガス	供給停止率:0.0%	● 供給継続				

※被害数量の「*」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-6　山田断層帯における南丹広域振興局地域のシナリオ（2/2）

山田断層帯

【南丹広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(2/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
交通施設	道路（橋梁）	橋梁大被害 0 箇所	● 山間部の土砂災害に起因する道路閉塞等により、一部地域で通行止めが発生 ➢ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ➢ 緊急輸送路の被害状況調査			● 概ね通行機能が回復	
交通施設	鉄道	新幹線:0 箇所 その他:10	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 揺れの大きい地域では橋脚や盛土の被害等が発生 ✧ 鉄道各社による点検・応急復旧作業	→	● 鉄道の一部で運行再開 →		● 概ね運行再開
文化財		文化財被害数:0 件 文化財焼失数:0 件	● 被害は発生しない				
避難所		避難者数	✧ 混乱防止の広報 ✧ 避難所を開設・運営 ● 自宅に留まっていた住民が断水のため避難所に移動	→		● 断水解消に伴い自宅へ ✧ 避難所の閉鎖	
避難所		【被災直後】 ＊			【1 週間後】 ＊	【1 ヶ月後】 ＊	
避難所		帰宅困難者数: 6,100 人 外国人宿泊者数: 30 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が発生 ✧ 一時退避場所、一時滞在施設で帰宅困難者を受入れ ➢ 公共交通機関等の運航状況の情報提供 ➢ 代替輸送の調整				
物資		物資（備蓄品）必要量 食料:＊ 飲料水:200 リットル 毛布:＊	✧ 物資の調達体制を整備 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設	✧ 備蓄している飲食料や生活必需品を不足市町村に提供 →	→	→	→
災害廃棄物		災害廃棄物発生量: 5,300 トン	✧ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 ✧ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬処理方法の検討	✧ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 ✧ 災害廃棄物の収集運搬処理の開始 ➢ ゴミ処理及び災害廃棄物処理の情報提供 ➢ 市町村間調整、広域的な支援要請		✧ 被災市町村からの災害廃棄物の受入 →	
災害応急体制	消防	—	✧ 住民が初期消火を実施 ✧ 消防局・消防団による消火活動				
災害応急体制	救出救護活動	—	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響	● 燃料不足による救出・救護活動の影響			
医療関連（医療機関・医師）		—		✧ 医薬品等を調達、搬送 ✧ 救護活動を展開 ✧ 被災市町村からの傷病者の受入			

※被害数量の「＊」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-7　山田断層帯における中丹広域振興局地域のシナリオ（1/2）

山田断層帯

【中丹広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(1/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1ヶ月後	復旧期 ～3ヶ月後
災害		最大震度:6 強	● 由良川等沿いを中心に液状化被害が発生 ● 管内東部の山地部を中心に斜面災害が発生 ● 規模の大きな余震、余震に伴う斜面災害等の拡大 ● 堤防等河川構造物の被災に伴う浸水被害	● 大雨時には堤防等被災箇所から浸水被害が発生 ● 山地部にできた土砂ダムが降雨により決壊			
建物		全壊:1,100 棟 半壊:7,000 棟	● 旧耐震基準の木造建物を中心に被害が発生 ● 由良川等沿いでは、揺れ・液状化による傾き等居住困難な住居が発生 ● 斜面崩壊による住居の損壊、周辺に土砂堆積 ● 余震による倒壊等の被害拡大	✧ 建物の応急危険度判定を開始 ➢ 応急仮設住宅の供給体制の整備	➢ 被災者生活再建支援法の適用	✧ り災証明発行に伴う建物被害認定調査を実施 ➢ 倒壊建物等の撤去（民間協力要請、撤去費支援） ✧ 公営住宅の斡旋、応急仮設住宅の建設	✧ 被災建物の撤去、再建が本格化
火災		焼失棟数:20 棟	● 火気・電気機器等から出火・延焼 ● 強風時、飛び火等により延焼が広域化する恐れ	● 電気の復旧の際、破損した電気機器等による通電火災に注意			
人的		死者:30 人 負傷者:300 人 要救助者:80 人	● 建物倒壊、火災により死者・要救助者が発生 ● 屋内落下物、未固定家具の横転、ガラス飛散、パニックによる転倒等により負傷者が発生 ● 余震に伴う負傷者の増加 ✧ 遺体安置所の開設	● 入院患者や避難者の震災関連死が発生 ✧ 死者・行方不明者の捜索、遺体の身元確認 ✧ 遺体の安置・保存、埋火葬体制の構築 ✧ 安否不明者の氏名等公表			
ライフライン	電力	停電軒数(停電率): 【被災直後】 200 軒(0.1%)	● 配電設備等の被災により停電が発生 ● 被害の小さい地域から段階的に電力が回復 【1 日後】 40 軒(0.0%)		● 概ね電力が回復 【4 日後】 ＊(0.0%) 【1 週間後】 0 軒(0.0%)		
	上水道	断水人口(断水率): 【被災直後】 45,000 人(23.9%)	● 管路等の被害による断水が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ➢ 市町村の要請に基づき防災上重要な施設への給水車の配車調整 ➢ 応急給水に係る支援要請・調整 【1 日後】 25,000 人(13.2%)	● 断水継続 ✧ 優先度の高い場所から応急給水活動を開始	● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消 ✧ 断水状況に応じて応急給水活動を継続 【1 週間後】 11,000 人(5.6%)	【1ヶ月後】 700 人(0.4%)	● 被害を受けた管路の復旧がほぼ完了し、管路被害を原因とする断水は概ね解消
	下水道	機能支障人口 (機能支障率): 【被災直後】 5,200 人(3.1%)	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ✧ 浚渫等の応急処置 【1 日後】 4,000 人(2.4%)	✧ 流下機能確保のための緊急工事 ✧ 下水使用制限の広報	【1 週間後】 1,200 人(0.7%)	● 概ね利用が可能に 【1ヶ月後】 0 人(0.0%)	
	通信	不通回線数(不通率): 停波基地局率: 【被災直後】 200 回線(0.3%) 0.4%	● 通信設備の被災や輻輳の発生等により、通話・通信が制限 ● インターネット利用に支障、SNS やメールの運配の可能性 【1 日後】 20 回線(0.0%) 0.1%	● 段階的に通信状況が回復 ● 携帯電話基地局の停止(停電)により影響が継続	● 固定、携帯ともに概ね通信状況が回復 【4 日後】 ＊(0.0%) 0.0% 【1 週間後】 0 回線(0.0%) 0.0%		
	都市ガス	供給停止率:0.0%	● 供給継続				

※被害数量の「＊」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応

表 3.5-8　山田断層帯における中丹広域振興局地域のシナリオ（2/2）

山田断層帯

【中丹広域振興局地域】（冬、夕方（18 時））

（2/2）

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
交通施設	道路（橋梁）	橋梁大被害 0 箇所	● 山間部の土砂災害や建物・電柱の倒壊、放置車両に起因する道路閉塞等により通行止めが発生、山間部の集落が孤立 ➢ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ➢ 緊急輸送路の被害状況調査 ➢ 緊急輸送路の啓開（自衛隊、協定締結団体等への要請）	● 道路啓開が段階的に進行 ● 高速道路や橋梁は仮復旧が進行、一部供用を再開	→	● 主要道路の啓開が概ね完了	● 概ね通行機能が回復
交通施設	鉄道	新幹線：0 その他：100 箇所	● 鉄道は全面的に運行停止 ● 揺れの大きい地域では橋脚や盛土の被害等が発生 ✧ 鉄道各社による点検・応急復旧作業	→	● 鉄道の一部で運行再開	→	● 概ね運行再開
文化財		文化財被害数：1 件 文化財焼失数：0 件	● 多数の建造物に被害。転倒等による美術工芸品被害も発生 ✧ 地域の消火活動 ✧ 文化財の退避 ➢ 文化財の被害状況調査 ➢ 体制・設備の整った施設に保管	✧ 損傷した文化財の応急措置	✧ 損傷した文化財建造物に対する二次被害の防止対策		✧ 文化財の修復に向けた検討の開始
避難所		避難者数 【被災直後】 1,800 人	● 避難者が発生 ✧ 避難誘導、混乱防止の広報 ✧ 避難所を開設・運営、仮設トイレの設置 ✧ 広域避難場所での支援 ● 自宅に留まっていた住民が断水、停電、備蓄枯渇等により避難所に移動	● 大雨の予報に伴い避難者が増加 ● 避難所の衛生環境の悪化、避難所内の感染症拡大に注意 ➢ 仮設トイレの応援・斡旋 ➢ ボランティアの市町村間調整 ✧ ボランティアの募集開始	➢ 保健指導、健康相談、メンタルヘルスケア ✧ 避難生活の長期化対応（健康・食生活・環境・相談体制等） ✧ ボランティアの配分調整 【1 週間後】 4,400 人	● 住居が無事な住民は自宅へ ● 住居喪失の避難者は避難所生活 ✧ 避難所の統廃合 【1 ヶ月後】 2,400 人	→
避難所		帰宅困難者数： 13,000 人 外国人宿泊者数： 30 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が多数発生 ✧ 駅等で避難誘導 ✧ 一時退避場所、一時滞在施設で帰宅困難者を受入れ ➢ 公共交通機関等の運航状況の情報提供 ➢ 代替輸送の調整				
物資		物資（備蓄品）必要量 食料：3,400 食 飲料水：45,000 リットル 毛布：1,400 枚	✧ 備蓄している飲食料や生活必需品を提供 ✧ 物資の調達体制を整備 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設準備 ➢ 国・協定締結団体等へ供給要請 ➢ 備蓄物資の提供 ➢ 義援物資受入、配分調整 ✧ 物資配布の広報	✧ 協定を締結した民間事業者からの調達物資の配分を開始 ✧ 他都市等からの支援物資の配分を開始 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設・運営	✧ 国からの支援物資の配分を開始	義援物資の配分	→
災害廃棄物		災害廃棄物発生量： 289,000 トン	✧ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 ✧ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬処理方法の検討	✧ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 ✧ 災害廃棄物の収集運搬処理の開始 ➢ ゴミ処理及び災害廃棄物処理の情報提供 ➢ 市町村間調整、広域的な支援要請	→	✧ 住民用仮置場を順次閉鎖 ✧ 広域連携処理を行う際の災害廃棄物の輸送体制の確立、処分先の確保	→
災害応急体制	消防	—	✧ 住民が初期消火を実施 ✧ 消防局・消防団による消火活動 ● 消防局・消防団の被災による消防力の不足 ➢ 消防庁へ緊急消防援助隊の派遣要請 ➢ 緊急消防援助隊の活動調整 ✧ 緊急消防援助隊が来援、消火活動を開始	→			
災害応急体制	救出救護活動	—	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響 ● 商業施設でエレベータ閉じ込め ✧ 生存者の捜索・救出 ➢ 国及び隣接府県、協定締結機関に対する応援要請 ➢ 被害状況、交通規制、開設避難所等の広報	● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響 →			
医療関連（医療機関・医師）		—	➢ 医療救護班の編成、医薬品等の確保 ➢ DMAT 派遣要請 ✧ 必要な負傷者は市外の医療機関に二次搬送 ➢ 救護所の設置支援、救護班の派遣	✧ 医薬品等を調達、搬送 ✧ 応援救護班が来援、救護活動を展開 →			

※被害数量の「*」は、端数処理した桁以下の値で、0 ではないことを示します。

● ：被害の様相
➢ ：府の対応
✧ ：市町村等関係機関の対応

表 3.5-9　山田断層帯における丹後広域振興局地域のシナリオ（1/2）

山田断層帯

【丹後広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(1/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1 日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1ヶ月後	復旧期 ～3ヶ月後
災害		最大震度：7	● 川沿いの低平地を中心に液状化被害が発生 ● 山地部で斜面災害が発生 ● 規模の大きな余震、余震に伴う斜面災害等の拡大 ● 堤防等河川構造物の被災に伴う浸水被害	● 大雨時には堤防等被災箇所から浸水被害が発生 ● 山地部にできた土砂ダムが降雨により決壊			
建物		全壊：36,000 棟 半壊：25,000 棟	● 旧耐震基準の木造建物を中心に被害が発生 ● 液状化による傾き等居住困難な住居が発生 ● 斜面崩壊による住居の損壊、周辺に土砂堆積 ● 余震による倒壊等の被害拡大 ➢ 応急危険度判定士の派遣	✧ 建物の応急危険度判定を開始 ➢ 応急仮設住宅の供給体制の整備	➢ 被災者生活再建支援法の適用	✧ り災証明発行に伴う建物被害認定調査を実施 ➢ 倒壊建物等の撤去（民間協力要請、撤去費支援） ✧ 公営住宅の斡旋、応急仮設住宅の建設	✧ 被災建物の撤去、再建が本格化
火災		焼失棟数：1,100 棟	● 火気・電気機器等から出火・延焼 ● 強風時、飛び火等により延焼が広域化する恐れ	● 電気の復旧の際、破損した電気機器等による通電火災に注意			
人的		死者：400 人 負傷者：1,600 人 要救助者：3,000 人	● 建物倒壊、火災により死者・要救助者が発生 ● 屋内落下物、未固定家具の横転、ガラス飛散、パニックによる転倒等により負傷者が発生 ● 余震に伴う負傷者の増加 ✧ 遺体安置所の開設	● 入院患者や避難者の震災関連死が発生 ✧ 死者・行方不明者の捜索、遺体の身元確認 ✧ 遺体の安置・保存、埋火葬体制の構築 ✧ 安否不明者の氏名等公表			
ライフライン	電力	停電軒数（停電率）： 【被災直後】 5,000 軒（7.9%）	● 配電設備等の被災により停電が発生 ● 被害の小さい地域から段階的に電力が回復 【1 日後】 4,000 軒（6.5%）		【4 日後】 1,300 軒（2.1%） 【1 週間後】 300 軒（0.4%）	● 概ね電力が回復	
ライフライン	上水道	断水人口（断水率）： 【被災直後】 87,000 人（96.5%）	● 管路等の被害による断水が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ➢ 市町村の要請に基づき防災上重要な施設への給水車の配車調整 ➢ 応急給水に係る支援要請・調整 【1 日後】 74,000 人（82.1%）	● 断水継続 ✧ 優先度の高い場所から応急給水活動を開始	✧ 断水状況に応じて応急給水活動を継続 【1 週間後】 59,000 人（65.3%）	● 管路の復旧が進捗した地域から、段階的に断水が解消 【1ヶ月後】 14,000 人（15.6%）	● 被害を受けた管路の復旧がほぼ完了し、管路被害を原因とする断水は概ね解消
ライフライン	下水道	機能支障人口 （機能支障率）： 【被災直後】 9,200 人（13.6%）	● 管路等の被災により、下水道の利用に支障が発生 ➢ 施設の被害状況を把握 ✧ 浚渫等の応急処置 【1 日後】 9,100 人（13.5%）	✧ 流下機能確保のための緊急工事 ✧ 下水使用制限の広報	【1 週間後】 7,600 人（11.3%）	【1ヶ月後】 1,700 人（2.5%）	● 概ね利用が可能に
ライフライン	通信	不通回線数（不通率）： 停波基地局率： 【被災直後】 7,100 回線（15.2%） 21.9%	● 通信設備の被災や輻輳の発生等により、通話・通信が制限 ● インターネット利用に支障、SNS やメールの遅配の可能性 【1 日後】 4,400 回線（9.7%） 15.5%	● 段階的に通信状況が回復 ● 携帯電話基地局の停止（停電）により影響が継続	【4 日後】 1,000 回線（2.1%） 4.1% 【1 週間後】 200 回線（0.4%） 0.8%	● 固定、携帯ともに概ね通信状況が回復	
ライフライン	都市ガス	供給停止率：0.0%	● 供給継続				

● ：被害の様相
➢ ：府の対応
✧ ：市町村等関係機関の対応

表 3.5-10　山田断層帯における丹後広域振興局地域のシナリオ（2/2）

山田断層帯

【丹後広域振興局地域】(冬、夕方(18 時))

(2/2)

被害項目		被害想定	発災直後～災害拡大期 地震発生～1日後	災害沈静期 ～3 日後	災害沈静期 ～1 週間後	復旧期 ～1 ヶ月後	復旧期 ～3 ヶ月後
交通施設	道路（橋梁）	橋梁大被害:10 箇所	● 山間部の土砂災害や建物・電柱の倒壊、放置車両に起因する道路閉塞等により、通行止めが発生 ● 橋梁の一部で通行機能障害が発生 ➢ 緊急車両の通行確保等のための交通規制 ➢ 緊急輸送路の被害状況調査 ➢ 緊急輸送路の啓開（自衛隊、協定締結団体等への要請）	● 道路啓開が段階的に進行 ● 高速道路や橋梁は仮復旧が進行、一部供用を再開	→	● 主要道路の啓開が概ね完了 →	● 概ね通行機能が回復
	鉄道	新幹線:0 箇所 その他:200 箇所	● 鉄道は全面的に運行停止 → ● 揺れの大きい地域では橋脚や盛土の被害等が発生 ✧ 鉄道各社による点検・応急復旧作業		● 鉄道の一部で運行再開 →	→	● 概ね運行再開
文化財		文化財被害数:41 件 文化財焼失数:0 件	● 多数の建造物に被害。転倒等による美術工芸品被害も発生 ✧ 地域の消火活動 ✧ 文化財の退避 ➢ 文化財の被害状況調査 ➢ 体制・設備の整った施設に保管	✧ 倒壊・損傷した文化財の応急措置	✧ 倒壊・損傷した文化財建造物に対する二次被害の防止対策		✧ 文化財の修復に向けた検討の開始
避難所		避難者数 【被災直後】 32,000 人	● 避難者が発生 ✧ 避難誘導、混乱防止の広報 ✧ 避難所を開設・運営、仮設トイレの設置 ✧ 広域避難場所での支援 ● 自宅に留まっていた住民が断水、停電、備蓄枯渇等により避難所に移動	● 大雨の予報に伴い避難者が増加 ● 避難所の衛生環境の悪化、避難所内の感染症拡大に注意 ➢ 仮設トイレの応援・斡旋 ➢ ボランティアの市町村間調整 ✧ ボランティアの募集開始 →	➢ 保健指導、健康相談、メンタルヘルスケア ✧ 避難生活の長期化対応（健康・食生活・環境・相談体制等） ✧ ボランティアの配分調整 →	● 住居が無事な住民は自宅へ → ● 住居喪失の避難者は避難所生活 【1 ヶ月後】 45,000 人	
		帰宅困難者数: 15,000 人 外国人宿泊者数: 200 人	● 公共交通機関が停止、帰宅困難者が多数発生 ✧ 駅等で避難誘導 ✧ 一時退避場所、一時滞在施設で帰宅困難者を受入れ ➢ 公共交通機関等の運航状況の情報提供		【1 週間後】 47,000 人		
物資		物資（備蓄品）必要量 食料:62,000 食 飲料水:87,000 リットル 毛布:26,000 枚	✧ 備蓄している飲食料や生活必需品を提供 ✧ 物資の調達体制を整備 ✧ 物資・集積搬送拠点の開設準備 ➢ 国・協定締結団体等へ供給要請 ➢ 備蓄物資の提供 → ➢ 義援物資受入、配分調整 → ✧ 物資配布の広報 →	✧ 協定を締結した民間事業者からの調達物資の配分を開始 ✧ 他都市等からの支援物資の配分を開始 → ✧ 物資・集積搬送拠点の開設・運営 →	✧ 国からの支援物資の配分を開始 →	✧ 義援物資の配分 →	→
災害廃棄物		災害廃棄物発生量: 4,881,000 トン	✧ 災害廃棄物の仮置場の設置準備を開始 ✧ 家庭ごみ・避難所ごみの収集運搬処理方法の検討	✧ 災害廃棄物の仮置場を設置し、運営を開始 → ✧ 災害廃棄物の収集運搬処理の開始 ➢ ゴミ処理及び災害廃棄物処理の情報提供 ➢ 市町村間調整、広域的な支援要請	→	✧ 住民用仮置場を順次閉鎖 ✧ 広域連携処理を行う際の災害廃棄物の輸送体制の確立、処分先の確保 →	→
災害応急体制	消防	—	✧ 住民が初期消火を実施 ✧ 消防局・消防団による消火活動 → ● 消防局・消防団の被災による消防力の不足 ➢ 消防庁へ緊急消防援助隊の派遣要請 ➢ 緊急消防援助隊の活動調整 ✧ 緊急消防援助隊が来援、消火活動を開始		→		
	救出救護活動	—	● 道路閉塞による救出・救護活動の影響 ● 商業施設でエレベータ閉じ込め ✧ 生存者の捜索・救出 → ➢ 国及び隣接府県、協定締結機関に対する応援要請 ➢ 被害状況、交通規制、開設避難所等の広報	● 電力・燃料不足による救出・救護活動の影響	→		
医療関連（医療機関・医師）		—	➢ 医療救護班の編成、医薬品等の確保 ➢ DMAT 派遣要請 ✧ 必要な負傷者に市町外の医療機関に二次搬送 ➢ 救護所の設置支援、救護班の派遣	✧ 医薬品等を調達、搬送 ✧ 応援救護班が来援、救護活動を展開 →	→	→	

● :被害の様相
➢ :府の対応
✧ :市町村等関係機関の対応